

一般講演 12
眼内レンズ・屈折矯正
IOL/ Refraction correction

2022 年 10 月 13 日 (木) 16:30-17:30
第 9 会場 | 東京国際フォーラム ガラス棟 7F G701

座長：宮田 和典 (宮田眼科)

木-講演 12-4
角膜移植術後眼の白内障手術における眼内レンズ度数計算式の精度

鳥居 秀成¹、四倉 絵里沙¹、尾花 咲季¹、戸川 晴菜¹、
森 洋齊²、後藤 聡^{3,4}、長谷川 優実⁵、神谷 和孝⁶、
柴 琢也⁷、小島 隆司⁸、山口 剛史⁹、宮田 和典²、
根岸 一乃¹

1:慶應大、2:宮田眼科病院、3:東京医療センター、4:カリフォルニア大・パークレー校、5:筑波大、6:北里大、7:六本木柴眼科、8:名古屋アイクリニック、9:東京歯大・市川

【目的】全層角膜移植術 (PKP) 後眼の白内障手術における眼内レンズ (IOL) 度数計算精度を検討する。

【対象と方法】対象は連続縫合による PKP 後眼 (未抜糸) の白内障手術を行い術後 1 か月以上経過観察できた多施設症例 18 例 19 眼 (平均年齢 66.2 歳) で、従来どおり角膜前面の角膜屈折値 (K 値) を使用した SRK/T (S)・Barrett Universal 2 (B)・Barrett True K (True K)・Haigis (H) と、角膜前後面の角膜屈折値 (TK 値) を従来の K 値として使用した SRK/T (S-TK)・Haigis(H-TK)、TK 用に改良された Barrett TK Universal 2(B-TK)・Barrett TK True K(TK-True K) の合計 8 式による術後屈折誤差を後方視的に比較した。

【結果】術後予測屈折誤差 (算術値) の中央値 (D) は S, B, True K, H, S-TK, B-TK, TK-True K, H-TK の順に 0.31, 0.08, 0.45, -0.09, 1.09, 0.21, 0.28, 0.12 で、B は S, B-TK, S-TK, TK-True K と比較し有意に小さかった。絶対値では各計算式間で有意差を認めなかった。予測屈折誤差が ± 0.5D 以内および ± 1.0D 以内の割合 (%) は、それぞれ同順に 42.1, 36.8, 50.0, 31.6, 38.5, 30.8, 50.0, 30.8 と 47.4, 73.7, 55.6, 57.9, 38.5, 61.5, 50.0, 69.2 であり、± 0.5D 以内の割合は True K, TK-True K が最も高く、± 1.0D 以内の割合は B が最も高かった。

【結論】B, True K, TK-True K は PKP 後眼の白内障手術における IOL 度数計算式として有用である可能性が示唆された。今後症例数を増やして検討予定である。

【利益相反公表基準】該当有

【倫理審査】承認有 【IC】該当無